

1. 岡谷市の概要

(1) 岡谷市の位置

岡谷市は、信州の真ん中、諏訪湖畔に位置している。夏は避暑地として多くの観光客が諏訪湖周辺を訪れ、厳しい寒さの冬には、諏訪湖が全面氷に覆われ、その氷が隆起して一直線に裂けて盛り上がる現象「御神渡り」を見ることができる。(平成30年には見ることができた。) 鶴峯公園には、毎年5月、約30種類、3万株の色とりどりのつつじが咲き乱れ、つつじ祭りが開催される。毎年8月には太鼓祭りが開催され、多くの太鼓チームによる競演が見られる。これ以外にも、イルフ童画館、旧林家住宅、湖畔公園などの観光資源があるほか、古くから市民にうなぎが食され、消費量も全国トップクラスで、うなぎ屋や川魚のお店が数多くあるうなぎのまちでもある。

公共施設も充実しており、カノラホール、鳥居平やまびこ公園、ロマネット、岡谷蚕糸博物館(シルクファクトおかや)、テクノプラザおかや、岡谷美術考古館、生涯学習館(カルチャーセンター)、やまびこ国際スケートセンター、やまびこアリーナ、岡谷市民病院などがある。

JR中央本線を使えば、岡谷から新宿まで特急2時間30分、岡谷から塩尻経由で名古屋まで特急2時間(+快速10分)で移動できる。

高速道路では中央自動車道が整備されており、岡谷から東京まで182km、岡谷から名古屋まで162kmである。高速バスも通っており、岡谷から新宿まで3時間、岡谷から大阪まで5時間である。

(2) 岡谷市の歴史等

明治・大正・昭和のはじめにかけて、岡谷市には至るところに繭倉(まゆぐら)や製糸工場の煙突が立ち並び、製糸一色の街であり、世界一の生糸輸出国の中核的役割を担っていた。

昭和のはじめには世界中が不景気になり、日本中の製糸業は急にふるわなくなり、第2次世界大戦が起こってからは、岡谷市内の製糸工場は工場を小さくしたり、休んだり、ほかの仕事をし始めるようになった。戦争が終わってから、製糸業にかわる新しい仕事をつくり出してきた。時計、カメラ、計測器、プリント基板がたくさん作られるようになった結果、岡谷市は、諏訪市や下諏訪町とともに、「東洋のスイス」と呼ばれるような工業のまちになっている。